

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年一月度 入選句 (投稿総数三千百五十五句・一般投句数五百三十八句)

特選

運良しと言はれ恵方に住み古りぬ

千葉県千葉市

箕輪

恵一

「恵方」とはそれぞれの年の吉方をさすが、作者にとつて今住んでいるところが、まさに「恵方」なのである。人は根拠のないであろう「運」にも頼って生きている。どんな経緯でその土地に何年も住んでいるか知れないが、恵方にいるという気持ちだけでも、幸せを感じることができるといふ温かな句である。(永山筆)

飴色に風が育む柿すだれ

不破郡垂井町

児玉

信子

「柿すだれ」は、干し柿の並んだ様子である。数多くの干し柿がならぶ様子は、すだれそのものである。干し柿は日に当てることも大事だが、風によって柿の水分を少なくし、甘さを増すようにする。干し柿の「飴色」がだんだん濃くなつていく様子が「風に育む」の中七にしっかりと表現されている。色と情景が浮き出される句である。(永山筆)

故郷や身を透き映す河豚刺身

岐阜市

野田

葉月

河豚の刺身を食べている作者が、ふと故郷を回顧したのであろう。中七の「身を透き映す」が、何とも言えない叙情感的な雰囲気を醸し出している。故郷の思い出は数知れないであろうが、己の身の全てを透かしているような想い出にふける作者の様子がよく解る。中七の措辞がよい。(永山筆)

秀逸

チエロ響く窓に差しくる冬茜

愛知県名古屋市

舘野

茂子

阿吶の氣一打のつづく輔祭

不破郡垂井町

清水

るり

星空へ手を延ばしけり冬木立

不破郡垂井町

竹嶋

富美子

布団干し頬寄せ仕舞ふ日の匂ひ

愛知県額田郡

平松

京師

見せあふてまづまづ良かれ初みくじ

大垣市

野村

多佳子

七日粥幸せ飛ばぬやうに吹き

安八郡輪之内町

野村

照子

拍手の鬨引きしめる淑気かな

大垣市

中山

あや子

初夢のゴーギャンピカソ芭蕉かな

三重県鈴鹿市

松井

政典

年賀状余白は久し友の顔

静岡県磐田市

田村

文男

幣新たな神の還りし大鳥居

愛知県岡崎市

鈴木

正紘

入選

潮騒を背できく句碑や秋日和  
蕉翁の旅に触るるや年の暮  
冬の星億光年の夢来たる  
未知の日に胸ふくらませ日記買う  
手のひらに焼芋重さ比べけり  
靴の紐結びなおして落葉道  
行く所なくて落葉を少し踏む  
初日記快晴とだけ記しけり  
紅白の折鶴卓に御慶かな  
みがかれし床に影置く弓始

養老郡養老町 田中 秀子  
静岡県富士宮市 佐野 敏子  
羽島市 伊藤 みさの  
大垣市 吉田 てるみ  
不破郡垂井町 西垣 和志  
大垣市 鶴田 信子  
東京都世田谷区 関戸 信治  
大垣市 佐藤 すみ子  
大垣市 尾関 逸子  
不破郡垂井町 久保田 紘義

入選

風吹いて身を寄せ合える落葉かな  
初湯出てそろりと乗りぬ体重計  
風呂吹の湯気に香りの遍路宿  
年末や両手にずしり紙袋  
城跡に妻とそぞろう二日かな  
じんちようげ香りをくれた園に座し  
添書きの癖字懐かし年賀状  
妻逝きて余白で残る古日記  
冬晴や白き連山遥かなる  
冬ざれや灯のまた消ゆる老舗宿

不破郡垂井町 大羽 志津子  
大垣市 早崎 美弥子  
千葉県山武市 野木 編  
愛知県名古屋市 山田 雅之  
大阪府岸和田市 加納 おさむ  
大垣市 村西 芳扇  
兵庫県神戸市 紫 桔梗  
大垣市 渡辺 一光  
大垣市 高石 政明  
神奈川県横浜市 龍野 ひろし

選者吟

伸びきらぬ餅の白さを祝ひけり